

下野三楽園のあゆみ

大正

日本・世界の動き

元年 (1912) 11月 1日 創設

日光山輪王寺門跡 彦坂謙照 (ひこさか・じんしょう)
主唱により同寺院住職発起人となり県下官民有志の協力を得て創設 (設立当初入所児童男子3名)

大正3(1914)
第一次世界大戦

園長：彦坂謙照

4年 (1915)

3年度決算に輪王寺より壹千貳百六拾五円の借入の記載有

6月30日発行の4年度園況報告に輪王寺門跡事務所より貳百九拾壹円六拾銭の寄付の記載あり

9月 5日 講堂工事着手
10月 10日 講堂完成

大正4年ごろの
食事風景



5年 (1916)

家庭舎一棟建築

6年 (1917)

2月 11日 内務省より事業成績顕著なるを認められ金百五十円の奨励金を下付される

天台宗務庁より事業の成績を認められ補助金を交付せられる

次後毎年補助を受けるに至る

7年 (1918)

6年度収支決算に輪王寺交付金五百円の記載有
7年度からは壹千円の記載有 (11年から壹千六百円)

大正7(1918)
米騒動

12月 2日 輪王寺境内へ当園売店敷地使用許可願いが知事より許可される

9年 (1920)

2月 11日 内務省より金五十円の奨励金を下付される
2月 16日 財団法人の設立認可 児童収容舎の増築
彦坂謙照 総裁、今井徳順 理事長兼園長となる

10年 (1921)

2月 5日 総裁彦坂謙照師遷化せられる
2月 11日 宮内省より事業御奨励の思召をもって金壹百円也御下賜せられる
2月 11日 内務省より金五十円の助成金を下付される
10月 今井徳順 総裁となる
11月 人見貞開 理事長兼園長となる

11年 (1922)

2月 11日 宮内省より金四百円也御下賜せられる
内務省より金三百円の助成金を下付される
創立満十周年記念事業として、事務所及び家庭舎の移築改築、渡廊下の新設、水道の敷設等を行う
11月 1日 創設十周年記念事業挙行

12年 (1923)

2月 11日 宮内省より金四百円也御下賜せられる
内務省より金三百円の助成金を下付される

大正12(1923)
関東大震災

13年 (1924) 震災直後を迎え財界の不況取引銀行等の休業によりこのころより次第に経営難に陥る

2月 11日 宮内省より金三百円也御下賜せられる
内務省より金二百円の助成金を下付される
今井徳順総裁 栃木県知事より表彰される



大正14年 園庭にて

14年 (1925) 6月 栃木婦人協会と聯合して宇都宮市において三日間資金募集の慈善興行を開催する

昭和

2年 (1927) 2月 11日 宮内省より金三百円也御下賜せられる
内務省より金二百円の助成金を下付される

6月 栃木婦人協会、足利市社会事業協、本園の三団体聯合して足利市において一週間托鉢資金募集をなす

3年 (1928) 2月 11日 内務省より金二百円の助成金を下付される
栃木婦人協会と聯合共同資金募金を開始する
4月 足利市社会事業協会より金壹百五十円の特別助成を受ける

4年 (1929) 2月 11日 宮内省より金二百円也御下賜せられる
内務省より金二百円の助成金を下付される

昭和4(1929)
世界恐慌

5年 (1930) 2月 11日 宮内省より金壹百円也御下賜せられる
内務省より金三百円の助成金を下付される
地方財政益々窮迫を告げ為に金銭の募集は労多くして効
少なく依ってこの年より方向を変じて飯米を募集する

12月 足利市社会事業協会より金壹百円の特別助成あり
皇后陛下より御内帑金二百円御下賜の光栄に浴す

6年 (1931) 2月 11日 宮内省より金壹百円也御下賜せられる
内務省より金三百円の助成金を下付される

7年 (1932) 2月 11日 宮内省より金壹百円也御下賜せられる
内務省より金三百円の助成金を下付される
3月 20日 救護法による救護施設として認可を受ける
6月 29日 理事会第3号議案として(株)下野中央銀行休業による
欠損金処理が審議される
12月 三菱、住友両家より金九百円也助成を受ける

8年 (1933) 2月 11日 人見貞閑理事長栃木県知事より社会事業功労者として表
彰される
宮内省より金三百円也御下賜せられる
内務省より金三百円の助成金を下付される
12月 財団法人原田積善会より金千二百五十円也の
特別寄付を受ける



昭和8年 新装なった正門

9年 (1934) 2月 栃木県知事より救護施設設備拡張の認可を受ける

- 2月 恩賜財団慶福会より設備拡張工事費へ金壹千円也の補助を受ける
- 9年 (1934) 3月 10日 工事に着手す (第1 収容保育舎、第2 収容保育舎建替、1 棟122.76㎡)
- 3月 30日 栃木県知事より設備拡張工事費に対し金八百九十円也の補助を交付される
- 10年 (1935) 1月 31日 那須郡高林村凶作地より男女22名収容(3月27日開催理事会重要事項で報告)
- 11年 (1936) 1月 27日 罹災救助資金助成に関し、10年度においても継続助成方陳情のため、人見理事長 伊藤県社会課長と共に上京し内務大蔵両省に出頭陳情
- 2月 11日 宮内省より金三百円の御下賜、内務省より金三百円奨励金
恩賜財団慶福会より金三百円の助成
- 19日 罹災救助助成金中より金千五百円助成すべしとの指令を受く
- 12年 (1937) 12月 3日 今井徳順総裁遷化せられる
三井報恩会より金三百円の助成
三菱合資会社より金四百円の特別助成
- 13年 (1938) 2月 11日 宮内省より御下賜金、厚生省より奨励金
関口慈眞 総裁となる
- 12月 16日 三井報恩会より金三百円の助成
- 24日 三菱株式会社より金貳百五十円の助成
- 15年 (1940) 5月 11日 全国私設社会事業大会において全国私設社会事業連盟より関野書記満23年勤続者として表彰を受ける
- 10月 6日 皇紀二千六百年記念社会事業大会で人見理事長 厚生大臣より表彰
- 11月 1日 皇紀二千六百年と本園設立三十周年記念感謝祭を開催して、賛助会員並びに本園関係者を招待する
- 12月 22日 財団法人三井報恩会より昭和15年度補助金貳百円の指令を受ける
- 16年 (1941) 2月 11日 宮内省より御下賜金、恩賜財団慶福会より金三百円の助成
- 12月 24日 三菱合資会社より金貳百五十円の助成
- 27日 三井報恩会より金貳百円の助成
- 17年 (1942) 2月 11日 宮内省より御下賜金
- 10月 4日 事理会協議事項として、下野銀行からの申し出による預金処分の審議
- 18年 (1943) 2月 11日 宮内省より御下賜金 (金三百円)
- 19年 (1944) 2月 11日 宮内省より御下賜金 (金三百円)
- 3月 9日 株式会社三菱より金三百四十円の助成
- 9月 小暮慈全 理事長兼園長となる
- 昭和11(1936)
二・二六事件
- 昭和16(1941)
太平洋戦争はじまる

- 20年 (1945) 2月 11日 宮内省より御下賜金 (金三百円)
園舎等増築整備 (第4収容保育舎77.775㎡、第5収容
保育舎86.625㎡、第6収容保育舎86.625㎡、第7収
容保育舎86.625㎡、教養室42.075㎡、共同浴場26.4
㎡)
- 21年 (1946) 2月 11日 宮内府より御下賜金
恩賜財団慶福会から金壹百円の助成
12月 20日 恩賜財団慶福会から金七百円の助成
- 22年 (1947) 2月 11日 宮内府より御下賜金
4月 菅原英信 総裁となる
8月 22日 生活保護法の保護施設として認可
10月 31日 マキロップ神父 ララの救援事業の視察で来園
- 23年 (1948) 4月 29日 宮内府より御下賜金
8月 22日 養護施設として認可 (定員102名、入所棟7棟)
- 24年 (1949) 4月 29日 宮内府より御下賜金
7月 9日 秩父宮妃殿下ご来園
12月 プール (防火水槽) 完成
- 25年 (1950) 4月 人見貞開 理事長兼園長となる
人見貞開 理事長 有栖川宮選奨表彰
5月 18日 高松宮殿下ご来園
- 26年 (1951) 4月 人見貞開 理事長 藍綬褒章受章
- 27年 (1952) 3月 菅原英海 総裁となる
5月 14日 社会福祉法人へ変更認可
- 30年 (1955) 11月 1日 創設四十五周年記念式典挙行
- 31年 (1956) 1月 31日 児童棟1棟 (第8収容保育舎 98.439㎡) を整備し、定
員134名の認可
12月 10日 櫻井 泉 医師 嘱託医に就任
- 33年 (1958) 7月 31日 炊事棟にボイラー設備増設、第5～第8保育舎に食堂増築
- 34年 (1959) 7月 31日 児童棟1棟 (第9収容保育舎99㎡) を整備
11月 齊藤喜十郎 職業指導員黄綬褒章受章
- 35年 (1960) 6月 15日 浴場の新築 (49.23㎡)
9月 1日 定員140名の変更認可
11月 30日 児童遊戯室改築 (106.425㎡)
- 36年 (1961) 1月 住居表示が戸祭町1550番地から和尚塚町1丁目64
番地に変更となる

昭和20(1945)
宇都宮空襲
太平洋戦争おわる

昭和21(1946)
日本国憲法公布

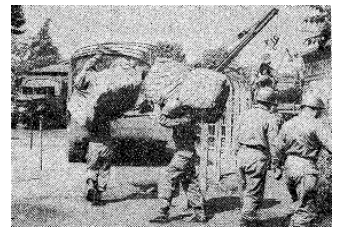
昭和25(1950)
朝鮮戦争

昭和29(1954)
昭和の市町村大合併



昭和39(1964)
東京オリンピック開催

- 40年 (1965) 4月 人見貞開 理事長 勲四等旭日小綬章受章
- 41年 (1966) 住居表示が宇都宮市桜4丁目2番18号に変更となる
- 43年 (1968) 3月 1日 入所児童の減少により、定員120名に変更認可
8月 人見貞諦 理事長兼園長となる
- 45年 (1970) 10月 23日 施設移転に伴う「地鎮法要及び起工式」を行う 昭和45(1970)
大阪万博開催
- 46年 (1971) 6月 16日 **桜4丁目にあった施設が老朽化したため、現在地(篠井)に新築移転**
建物延べ1,702.23㎡鉄筋コンクリート一部2階建
(管理棟827.72㎡、児童棟南館504.84㎡、児童棟北館508.98㎡)
倉庫建設(102.24㎡)
引越しには、陸上自衛隊宇都宮駐屯地部隊の協力がある(6月7日)
- 47年 (1972) 8月 貴船謙道 理事長、黒子昇 園長となる
- 48年 (1973) 構内、園庭、グランド整備の実施
グランドの拡張整備については陸上自衛隊宇都宮駐屯地部隊が作業(11月29日~30日)
- 49年 (1974) 3月 1日 理事会で運営資金不足により、運用財産の畑の売却が決定した旨報告
売却する土地：宇都宮市鶴田町3641-7 畑(1.123㎡)
10月 30日 幼児の入所増加に伴い、日中の幼児保育の向上のため幼児棟増築(157.26㎡)
- 50年 (1975) 6月 宮田謙啓 理事長となる
12月 柴田昌源 総裁となる
- 51年 (1976) 洗濯室増築(24.08㎡) お年玉年賀葉書寄附金の配分による
- 52年 (1977) 11月 6日 工作室増築(46.20㎡)
子育て地藏尊開眼法要
- 53年 (1978) 2月 17日 宇都宮二荒ライオンズクラブから救急用自動車としてライトバン1台寄贈
3月 17日 火災により調理員宿舎消失
職員宿舎2棟増築(55.14㎡、54.05㎡)
- 54年 (1979) 3月 15日 国際ソロプチミスト宇都宮から桜苗木(ソメイヨシノ)20本の寄贈、園進入路の両側に植樹
8月 19日 国際児童年記念地域交流事業「篠井地区子供の集い」を本園グランドで開催
- 55年 (1980) 5月 グランド周りのネットフェンス整備
8月 17日 第2回地域交流事業「篠井地区子供の集い」を篠井小学校体育館で開催



昭和46年6月18日付 栃木新聞

56年 (1981) 4月 29日 宮内省より御下賜金
10月 25日 秋季運動会を第3回地域交流事業「篠井地区
子供の集い」と合同として開催
以後、秋季運動会を地域交流事業と開催する
(平成5年度まで開催)



57年 (1982) 4月 小口悦男 園長となる
4月 22日 栃木経済交友会からカラーテレビ1台寄贈
6月 4日 宇都宮二荒ライオンズクラブから柿の木苗木10本、栗
の木苗木10本寄贈
12月 10日 墓地(納骨堂)新設許可(下小池字下古川193番地)

58年 (1983) 3月 23日 下野三楽園児物故者供養塔開眼式
12月 17日 全日本自動車産業労働組合より組立式プール1台寄贈

59年 (1984) 6月 20日 成善建設から手作り「神輿」の寄贈

60年 (1985) 11月 疋田 實 園長補佐勲六等瑞宝章受章

61年 (1986) 6月 鈴木常俊 理事長となる

62年 (1987) 中央競馬会の助成によりマイクロバス購入
マイクロバス車庫増築



63年 (1988) 4月 平木典子 養護主任勲六等瑞宝章受章

平成

元年 (1989) 3月 荻原貞興 総裁となる
大規模修繕の実施(床組補修工事、防水補修工事、暖房
配管改修工事)

5年 (1993) 4月 猪狩和久 園長となる

7年 (1995) 2月 鈴木常俊 総裁となる
6月 中里昌念 理事長となる



10年 (1998) 11月 26日 西館増設の「地鎮法要」を行う

11年 (1999) 6月 入所児童の高校進学が増加する中、児童の自立支援と文
化的生活を図るため西館を増設(629㎡)
6月 10日 西館園舎の「落成法要及び落成式」を行う

13年 (2001) 6月 29日 役員会で苦情処理検討委員会の設置と第三者委員3名の
委嘱を決定

14年 (2002) 小暮道樹 理事長となる

16年 (2004) 12月 菅原栄光 総裁となる

17年 (2005) 12月 28日 施設の運営改善について栃木県知事から勧告を受ける

平成17(2005)
平成の市町村大合併

18年 (2006) 1月 23日 運営改善委員会の委員委嘱及び第1回委員会の開催
3月 13日 運営改善委員会から「活動報告並びに最終建議書」が提出される
3月 27日 栃木県知事あて改善計画書を提出
3月 田村匡彦 園長となる
4月 柴田立史 理事長となる
6月 鈴木常元 理事長となる

22年 (2010) 小規模グループケアに向けて西館浴室等の改修の実施
8月 28日 園舎新築のための「地鎮法要」を行う

23年 (2011) 1月 14日 下野三楽園養育目標「慈悲・智慧・勇猛」を制定
3月 22日 施設の老朽化と定員減少しての小規模グループケアの実施のため全面改築を行う（西館を除く）

平成23(2011)
東日本大震災

管理棟406.183㎡
児童居住棟（東館・南館）589.048㎡
交流室163.513㎡
宿直室・自立生活室63.394㎡
倉庫112.500㎡
定員40名に変更



4月 1日 高久 哲 園長となる
4月 26日 新園舎の「落成法要及び落成式」を行う

24年 (2012) 10月 13日 創設100周年記念式典

27年 (2015) 3月 27日 小暮道樹 総裁となる

30年 (2018) 4月 1日 藤原崇夫 園長となる

令和

2年 (2020) 3月 27日 石塚慈雄 総裁となる

3年 (2021) 6月 16日 人見良典 理事長となる

令和3(2021)
東京オリンピック開催

4年 (2022) 11月 岩田友子 保育士 瑞宝単光章受章

6年 (2024) 4月 1日 分園型小規模グループケア「たんぽぽ」開設
児童居住棟163.13㎡

